

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和4年6月27日（月）

13：30～15：45

場 所：佐久市役所 7階703会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員8名（欠席2名）

事務局（広報広聴課長・広報広聴課職員・望月支所職員）4名

1 開会

2 会長あいさつ

（4/1付け異動に伴う事務局新任職員 自己紹介）

3 会議事項

（1）佐久市まちづくり活動支援金優良事業について

ア 令和3年度に佐久市まちづくり活動支援金の交付を受けた8事業の審査

イ 事務局より優良事業表彰に係る内規及び審査基準、審査の流れ等について説明

ウ 事務局から事業概要及び実績報告について説明

エ 審査

次の順で審査

① 青空カフェ事業

② カラマツフェス～NO KARAMATSU NO LIFE～

③ 常和を元気にする復興まちづくり事業

委員：この事業は何年目か。

事務局：R3で2年目の事業、今年度3年目を実施中です。今回の審査対象で、継続の事業は、No.3、No.4 さくっ子、No.5の木もれびサロンの三つです。

会長：事業の中の、自主防災組織の取組で課題があるか。

事務局：R3は防災マニュアルを作成したが、それを区内にどう周知していくかが課題になってくるのではと推察される。

委員：常和区は最優秀賞を受賞したことがあるが、今回また最多得点ならどうなるか。

事務局：規定により、1事業につき最優秀賞は1回までとなるので、今回常和区が最多得点の場合は、次点の事業が最優秀賞となり、常和区は通常の優秀賞の取扱いになる。

④ ド根性 さくっこ事業～笑顔 SaKu 体験から学びへ～

委員：この事業の受賞歴は。

事務局：昨年、R2の事業で優秀賞を受賞している。

⑤ 親子で木もれびサロン

委員：この事業の受賞歴は。

事務局：昨年、R2の事業で優秀賞を受賞している。

委員：実績報告の自己評価のところ、サロン12回の予定のところ、7回実施したが「あまりできなかった」に○がついている。コロナの影響でうすだ健康館が閉館したため中止になったのなら、自己責任ではないから、評価が低すぎると感じる。

委員：サロンの参加者が安定していますが、どうやって広報しているか。

事務局：事業費の実績では、チラシ代などが計上されていないため、うすだ健康館に協力してもらっているとか、口コミではないかと考えられる。

⑥ スタートライン～佐久で暮らし、働く。～（PR 動画制作）

（⑥の審査中、審査対象の団体に所属している池田委員は退席）

委員：自己評価に動画撮影に200名の予定がコロナの影響で100名になったとあるが、評価は「できた」に○になっているのは、果たしてできた、と言えるのか。また、事業の成果で「若者や女性のUIJターンや交流人口増加につながった」と言い切っているが、根拠があるなら示してもらいたい。この事業の申請の際も意見を申しあげたが、若者だけならよいが、なぜわざわざ女性と書く必要があるのか。ジェンダーフリーの観点に逆行していると感じる。

委員：数字の根拠がないので、評価しづらい。動画視聴回数も4,210回が、同種の動画と比べて多いのか少ないのか、判断しがたい。

⑦ みらいへつなぐプロジェクト～佐久平浅間小学校から世界へ～

⑧ 郷土芸能継承事業

【審査結果を集計】

(2) 佐久市の協働事業について

ア 事務局より、令和3年度市民等と市との協働事業について説明

イ 委員からの意見

会長：資料6の協働事例一覧表は、所管部署の名前が一番左側にあるが、市民にとっては重要ではない。協働の形態区分ごとのほうがわかりやすいのでは。市役所目線での作りになっているから見づらい。事業名や事業内容のほうが優先されるべきでは。

事務局：並べ替えをします。ホームページで公表しているので、訂正します。

会長：府中市の協働事例集を参考に持ってきたが、「どの主体が何を担って誰とどのように協力しているか」ということを図示するとわかりやすくなるので、佐久市版を作って発信したらどうか。協働の形態も、図で説明があったほうがよい。

委員：図があるほうがわかりやすい。

委員：アダプト制度とか、専門用語は市民にわかりにくい。日本語に変えられないのか。

委員：制度自体が外国から来た考えだから、日本語での説明が難しいかもしれない。

事務局：説明をつけたり、内容がわかるように工夫します。

【事務局より、優良事業審査の結果発表】

最優秀賞： 優秀賞の最上位事業が2件となったが、そのうち最優秀賞の受賞歴がある事業を規定により優秀賞とし、もう1件を最優秀賞と決定
優秀賞： 審査基準を上回った事業 6件 を決定

4 その他

- ・2022年度佐久平地域まるごとキャンパス事業について

事務局：佐久平地域まるごとキャンパスプログラム検討委員会について、金井副会長を当推進会議の代表として推薦、ご参加いただいている旨の報告

金井副会長：今年度も楽しく工夫されたプログラムが用意されている。委員の皆様も広報にご協力ください。

- ・次回の推進会議について

事務局：次回の会議は7月中に開催予定、2次募集分の支援金事業について審議予定。

- ・オンライン会議について

委員：3月の会議のようなオンラインとリアルハイブリッド形式で会議をする場合には、前回のようにオンライン側に会場の音声が届かないようなトラブルがないようにしてもらいたい。

5 閉会